

# 『損保ジャパンダプロジェクト』始動!



損保ジャパン日本興亜の発足(2014年10月)に合わせてスタートした『防災ジャパンダプロジェクト』をご紹介します。

このプロジェクトは、「防災人形劇」および「体験型防災ワークショップ」で構成されており、主に将来を担う子どもたち(と保護者の皆さん)を対象として、万が一の際に災害から自分自身・周囲の人を守るための知識や安全な行動を身につけていただくことを目的に実施しています。

「防災人形劇」では、愛知人形劇センターにご協力いただき、オリジナルの防災ストーリー『さんびきのこぶた危機一髪!』を製作、ひまわりホールを主な活動拠点とするPuppet Theaterゆめみトランクが上演します。おかげみが引き起こすいろいろな災害(風・雨・落雷・火事など)に対して、こぶた3兄弟が知恵を出し、助け合いながら困難に立ち向かうお話です。この防災人形劇を通じて、「災害の際には慌てないで行動することが大切」であることを学んでいきます。

「体験型防災ワークショップ」では、NPO法人プラス・アーツと協働し、

2015年1月、神戸での実施風景

実際に身体を動かしながら防災についての知識や技を楽しく学ぶことができます。スタンプラリー形式

で全部のワークショップを体验すると、防災グッズをプレゼントします。

この企画は、2014年10月のひまわりホールパペットフェスティバルでの初披露を皮切りに、1月に阪神・淡路大震災20年式典のサイドイベント(ぼうさい子どもひろば)へ出展、多くの子どもたちに参加頂きました。参加頂いた皆さんからは、「少しの工夫で、日常で使用しているものが災害時に役立つことがわかった」「とても楽しかった。地震はこわいけれど、もし地震が起きたらけが人を助けたい」などの意見を頂きました。

2015年度からは、全国で展開していく予定です。

損保ジャパン日本興亜CSR部 金井圭

REPOR

## 人形劇の旅～人形美術家おばらしげるを訪ねる～



制作した人形1500体以上。  
45年の間、人形に関わってきた  
た人形美術家おばらしげる氏。

1969年に川崎市の人形劇団ひとみ座に入団し、人形劇の美術に携わって以降、テレビや舞台等でも多くの仕事を行い、1987年に名古屋の人形劇団むすび座と専属契約。1995年に今の名古屋市千種区に美術工房を開いた。現在は着ぐるみ・舞台・CM・展示など、人形以外にも様々な現場から依頼の声が掛かる。

人形美術家は、舞台に立つことはない。人形を遣う演者を考へ、作品を観る観客を考へる、観客と作品の橋渡しをする存在だ。おばら氏だからこそ感じる「人形劇の今」について話を聞くため、千種区にある人形工房アトリエ羅道(らどう)を訪ねた。

「子どもを信用するためには、子どもを知らなければいけない」  
おばら氏は、変わり続ける時代の中で、変わらず人形美術を追求し続けています。

愛知人形劇センター理事 高村 豊

# P新人賞2014 結果報告と総評

## 京都の若き集団が、安吾を大胆に表現して受賞

2015年2月1日に損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホールでP新人賞2014最終選考会が開かれた。第1次選考を通過した3団体の作品が上演され、演劇評論家の安住恭子氏、世界ウニマ評議員の杉田信博氏、人形演劇企画室βの玉木暢子氏と私の4人が公開で最終選考をし、ベビー・ピーが受賞した。同時に観客投票により観客賞が決定された。以下は、それぞれの上演の様子と選考委員の評をまとめたものである。

最初に上演したJIGO(ジージョ／京都府)の『時計少女』(作・演出・美術:阪東亜矢子)は、蚊帳のようなスクリーンの中での手持ち光源を使った小さな影絵と時計の被り物を使った身体表現によるパフォーマンスであった。小さな影絵人形や腕を使った影絵の表現はその単純化(シンボル化)が面白いが、光源が不安定であったり人形の動き方が難であったりと完成度が低い。内容についても、時計がなくて時間が判らない少女が時計を求める必死や不安が、観客に共有されていなかった。それほどに時間に囚われる少女が我々の何を象徴しているのか。表現の手法が面白いだけに、そこを考えて一つレベルを上げた演出が欲しい。

次のベビー・ピー(京都府)の『山ぐるみ人形劇 桜の森の満開の下』(原作:坂口安吾、構成・演出:根本コースケ)は坂口安吾の原作を「山ぐるみ」と称する泥臭くエキゾチックなぬいぐるみ(最後に一部仮面が用いられた)を持って演じる朗読劇である。役柄を固定しないで、それぞれの役のぬいぐるみを持った役者がその役の台詞を話し、他が他の文を語る。それぞのぬいぐるみは役者の男女かわらずまんべんなく回される。人形劇と銘打ってはいるが、普通の現代人形劇のようには人形は動かない。役者に役を振り分ける、憑代(よりしろ)のように機能している。また役者自身が楽器も演奏し、それは時に音楽というよりは効果音のように使われる。

ベビー・ピーには賞金20万円が贈られた。さらに、今年度ひまわりホール子どもアートフェスティバル(旧ひまわりホールパペットフェスティバル)にて新作の公演も予定されている。乞うご期待。

のであろうか。機械人形のような女性が男性に動かされているうちに人間らしい動きをするようになるが、次第に男性の方が女性に動かされているようになってしまふ。ところどころ手品が挿入され、女性の衣裳も真っ白から色とりどりへと変化する。これを盛り上げるアコーディオン、バイオリン、ドラムによる生演奏が素晴らしい。抑制されていて決して前に出ることはないのであるが、動きによく合っていて、しかも想像を刺激するものであった。ただ、やはり主体はダンスであり、いろいろなものを盛り込みすぎたために、象徴するものがわからなくなってしまう。ダンサー自身の身体を意識的にオブジェクトとして扱う演出がもっとあれば、この賞の趣旨にも合ったのではないか。

選考委員の投票によって、P新人賞には表現の面白さと演目としての完成度の高かったベビー・ピーの『山ぐるみ人形劇 桜の森の満開の下』が選ばれた。また観客賞も僅差でベビー・ピーが受賞した。今回でこの賞も4回目を迎えるわけであるが、これまでなく僅差でレベルの高いものであったと思う。

凡そ「コンクール」と名のつくものであれば、明確な審査基準があつてかかるべきである。ところが、この「P新人賞」に関しては、それがない。それはこの賞の趣旨が「人形劇のP、オブジェ+身体パフォーマンスのP」であり「人形劇ジャンルの明日を担う斬新な才能を発掘する」ということを狙っているからである。この企画は愛知人形劇センターの人形劇育成事業の一つとして位置付けられており、もちろん、今年も催される。人形劇以外のジャンルからの応募も大歓迎、選考委員を大いに悩ませる作品を期待している。

ベビー・ピーには賞金20万円が贈られた。さらに、今年度ひまわりホール子どもアートフェスティバル(旧ひまわりホールパペットフェスティバル)にて新作の公演も予定されている。乞うご期待。

選考委員／愛知人形劇センター副会長 たかはしいちげん

最後の【exit】(イグジット／愛知県)の『Polka Poleczka』(振付・演出:堀江善弘)は、2人のダンサーによるコンテンポラリーダンスとでもいう

渡山博崇  
(星の女子さん)

メルヘンな毒と嘘で現代のおとぎ話を作る。世界の童話や日本の民話をモチーフに、日常世界とメルヘンの融合した演劇世界を創りあげる。日本制作作家協会東海支部員。

平塚直隆  
(オイスター)

ライトでドライな不条理系会話得意とし、第4回仙台劇のまち戯曲賞大賞、第16回日本制作作家協会新人戯曲賞優秀賞、日本制作作家協会東海支部プロデュース「劇王区」第9代劇王ほか、受賞歴多数。さらに若手演出家コンクール2011にて最優秀賞を受賞したことで、制作と演出の史上初の二冠を達成した。

かしやましげみつ  
(えんげきユニット孤独部)

詩的で日記的な文体、少ない言葉による沈黙の会話を軸に、00年代・10年代の演出手法を多く取り入れながら表現する。2014愛知県文化振興事業団主催、夏目漱石『こころ』の台本・演出を担当。

# 座談会「劇作家とつくる短編人形劇」

損保ジャパン日本興亜人形劇場ひまわりホールでは、いま活躍中の3人の劇作家に、人形劇のための短編戯曲を委嘱、この6月に人形劇と演劇の俳優が合同で上演します。かしやましげみつ氏(えんげきユニット孤独部)、平塚直隆氏(オイスター)、渡山博崇氏(星の女子さん)に木村繁(演出家)がインタビューしました。

平塚 僕が今回書く戯曲はシゲルさん(木村)が演出するので、人形劇の台本と意識せずに書いてみて、それをどうやって人形を使った芝居にするか楽しみです。以前、劇作家の伝典彦さんが書いてシゲルさんが演出した芝居(※『夢十夜』)を超えるものを作れたらしいなあ。

木村 楽しみと同時にたくさんの混乱が予測されますね。今からハラハラします。

かしやま 演劇と人形劇では、使う脳みその部分がちがうのかな?

うん…ちがうかも。

平塚 学生と芝居やっていると、自分の感情とからだが離れない。それが人形やモノとやると、人形やモノを客觀観できでいい体验ができるのかもしれない。総合劇集団俳優館で『おおきなかぶ』を演出したとき人形を使ったんだけど、その体验からすると、芝居の役者が人形劇をやると、役に熱中して、人形はただ手に持っているだけ、おかしなことになる(大笑)。

木村 それ、「提灯ぶらさげ症候群」といいます。今回は人形も皆さんで作ってもらいます。りかちゃん人形や怪獣人形やフィギュアもあります。ゴミだって台所道具だって人形になります。

渡山 私は星の女子さんの芝居で使った鳩を、百均で材料買ってきて、全部自分で作ってしまいました。

全員 畏れ入りました。

木村 ひまわりホールでは4年前からP新人賞の全国公募をしています。PはパペットのP、パフォーマンスのPです。人形劇だけでなく演劇や舞蹈やダンスの集団が応募てきて、ちょっとした人気になっています。皆さんの仕事が又新しい魅力を生み出してくれると期待しています。



木村繁(演出家)

劇作家とつくる短編人形劇  
6月19日(金) 19:00・20日(土) 14:00、19:00・21日(日) 14:00

今、活躍めざましい3人の劇作家に人形劇とオブジェのための戯曲を委嘱、愛知人形劇センターと演劇人の混成チームで、可愛く怪しい人形劇を作ります。

◇書き下ろし劇作家◇  
かしやましげみつ(えんげきユニット孤独部)  
平塚直隆(オイスター)  
渡山博崇(星の女子さん)

前売2,000円 当日2,300円 (愛知人形劇センター正会員は前売1,800円)